令和２年度　学力向上プラン

学校名　中央区立京橋築地小学校

学校の教育目標

・よく考える子　　・思いやりのある子　　・たくましい子

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

学習指導要領の趣旨及び内容を踏まえ、「分かる授業」づくりを目指し、一人一人の特性を捉えたきめ細かい指導の工夫を行う。教員が「子どもの側に立った指導」ができるよう、学習指導の方法や内容、日々の授業について常に研鑽・評価し合っていく。

令和元年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因		
	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国　語	「学習力サポートテスト」において、「書く」の正答率が全国平均を5ポイントほど下回る結果となった。筋道立てて自分の考えや感じたことを書くこと、既習の漢字の定着に課題が見られる。また、自分の考えを整理し、一定量の文章を書くことにも課題が見られる。	書く活動において、自分の考えを整理し、組み立てていく経験が不足していると考えられる。
算　数	「東京都学力向上を図るための調査」において、「思考・判断・表現」の正答率が47.5%であった。計算は正しくできるが、資料を読み取り、演算決定をして答えを導くことに課題がある。	筋道立てて考える力、考え方を表現する力ともに個人差が大きい。公式の適用や演算はできるが、公式等のもつ意味の理解が不十分であることが考えられる。
社　会	「学習力サポートテスト」において、「観察・資料活用の技能」の正答率が区平均を下回っている。知識は定着してきているが、資料をもとに考えたり、活用して表現したりする力に課題がある。	児童自らが問題を追究し解決する学習に加え、必要な資料を選ぶことや、活用する学習経験が不足している。
理　科	「東京都学力向上を図るための調査」や「学習力サポートテスト」において、全体的に正答率が全国平均を下回る。「自然事象への関心・意欲・態度」の低さが全体の課題につながっていると考えられる。	学んだことを日常生活に当てはめ、活用する経験の不足が考えられる。また、既習事項について振り返る機会が不十分であることも考えられる。
体　育	令和元年度のスポーツテストの結果では、50ｍ走や20ｍシャトルランにおいて数値の高い学年が多いが、「ソフトボール投げ」「握力」が男女ともに全国平均を下回る学年が多い。	住居周辺に体を動かせる場所や施設が限られているため、多様な動きを経験する機会が少ない。また、スポーツ団体への所属の有無等による個人差や、取り組む種目が特化していることも要因として考えられる。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と、思考力、表現力の伸長を図り、東京ベーシック・ドリル等における正答率を80％以上にする。
②授業改善	・分かりやすく、確実に学力を定着させる授業をめざし、学校評価の児童・保護者アンケートの授業に関する項目で、肯定的評価を90％以上にする。
③教員の指導力	・研究授業の実施、校内ＯＪＴ組織体制を生かした研修の場を学期ごとに設定するなど、教員同士でともに学び合い指導力の向上を図り、授業の質を向上させる。
④家庭との連携	・家庭との連携のもと、学年×１０分の家庭学習の習慣を身に付けさせる。
⑤体力向上	・持久走、および泳力において、学年に応じて設定する数値目標の達成率を８０％以上にする。（今年度は水泳中止）

【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	・表現力、判断力、思考力を育成するために、個の学びの場、学び合いの活動の場を適切に授業に設定する。
取組Ⅱ	・基礎的・基本的な知識及び技能の習得・定着を図るために、授業のほか、朝学習の時間などで、個に応じて東京ベーシック・ドリル等を活用した既習事項の反復、立ち戻る学習を行う。（今年度は短縮時程のため朝学習実施なし。家庭学習を活用）
取組Ⅲ	・算数科における基礎・基本の確実な習得のために、夏休みや放課後に補習教室を実施し、個に応じた指導の充実を図る。

②授業改善	
取組Ⅰ	・読書活動、文章を読み取る学習活動のほか、考えたことを文章にまとめる活動の充実を図り、読む力と書く力を育成する等、言語活動の充実を図る。
取組Ⅱ	・理科や社会科等、問題解決の学習過程に沿った授業の展開を工夫するとともに、学習内容と実生活との関連を図り、思考力を伸長し、実感を伴った学習内容の理解ができるようにする。
取組Ⅲ	・タブレットＰＣ等ＩＣＴ機器を活用し、数学的活動や、自分の考えを言葉や図、式で表現する活動を工夫し、数学的な思考力を育てる。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	・校内研究会において全学年で１回ずつ算数科の研究授業を行い、児童が主体的に考え、児童の思考力、表現力を伸長する授業づくりに取り組む。（今年度は低・中・高学年の３回実施予定）
取組Ⅱ	・各教員の専門性を学び合う、校内ＯＪＴ研修会を年間を通して計画的に実施する。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	・学年×１０分間の家庭学習が習慣として身に付くように、保護者会や個人面談などを通して保護者との共通理解を図るとともに、適切な家庭学習の課題を日常的、計画的に出し、児童に取り組ませる。
取組Ⅱ	・個人面談や通知表などを通して、学力調査の結果や日常の学習活動への取組などについて、児童の個々の状況を適切に保護者へ伝えるとともに、よりよい成長のための手だてについて共通理解を図る。
取組Ⅲ	・読解力の向上を図るため、親子で読書期間を設けることを奨励する。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	・学年ごとの達成目標を設定し、６年間を見通して、個々の泳力に応じた水泳指導の充実を図る。（今年度は水泳中止。縄跳びカードの活用等で体力向上を図る）
取組Ⅱ	・持久走カードの活用や、持久走重点週間の設定、体育の授業に継続的に持久力を高める運動を取り入れることで、児童の意欲と体力の向上を図る。

【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
① 学力基盤	サポートテストの分析に基づいた弱点克服ドリルの活用や、前学年の学習内容の復習プリントに日常的に取り組ことで、東京ベーシック・ドリル診断テストの結果が各学年概ね７０～８０％となった。	令和２年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、朝の集会を中止したため、朝学習の時間を確保できなかった。そのため、年間の授業時数が限られた中での復習時間の確保が難しかった。令和３年度は令和２年度よりも、時程等の工夫し、技能の習得・定着の時間を確保する。
② 授業改善	学校評価児童アンケートにおいて、「授業の内容がよくわかりますか」設問に対し、「よくわかる」「わかる」と答えた児童の割合が９８％となった。	校内研究の主題である「主体的に考え、表現する児童の育成」を進める中で、自分の考えを、図や式、言葉で表現する活動を積極的に取り入れ、数学的な思考力、表現力を育てる授業を継続する。児童同士が対話を重視した授業を行い、学び合える学習活動の充実を図る。
③ 教員の指導力	低学年・中学年・高学年において、１回ずつ研究授業を行ったり、オンラインでの授業参観や協議会を行ったりするなど、感染症対策をしながら ICT を活用した研究会を設けることで、教員の授業力が向上した。	教員が相互に授業を観察したり、放課後に 0JT を行ったりするなど、日頃から計画的な 0JT の活性化を図り、特に若手教員へ主任教諭、主幹教諭が意識的に助言を行う。
④ 家庭との連携	保護者会等で周知し、理解と協力を促すことで、学年×１０分の家庭学習を行う児童が増加した。	学年×１０分の家庭学習の習慣を確実に身に付けるために、家庭への継続したアナウンスや、家庭における取り組み状況の把握を進める。
⑤ 体力向上	新型コロナウイルス感染症対策のため、持久走大会や水泳指導を実施できなかったが、その時間を縄跳びにすることにより、例年より多く取り組む機会を設けることができ、技術や意欲が向上した。	児童が丈夫な体をつくるために、継続して意欲的に取り組める活動の場を設けるために、日常の体育の授業に持久力向上を意識した体づくりの運動を取り入れる。新型コロナウイルス感染症対策のために活動が制限される中でも、運動に親しむ資質・能力を育成する。